

| | |
|----------|--|
| 対象 | 中学校以上 |
| 教科 | 特別活動・ 総合的な学習の時間 |
| 該当 単元 | 中学1年 「SDGsに 関連して」 ・世界の貧困 ・世界環境 |
| 教科書 | |
| 掲載日 | 2019.2.18. 朝刊 広域滋賀版 |

問1：SDGsについて
　　どういものか、
　　まとめましょう。

SDGsは()年
の()で採択された
()年までの国際
目標。()や
()などに関

して()の目標を定めたもの。

問2：このワークショップで紹介され
た次の国はどこでしょう。

- ①レアメタルの鉱山を巡り武装勢力な
　　どの衝突が起きている国
　　()
- ②企業の強引な開発により現地住民の
　　暮らしに悪影響が及んでいる国
　　()

問3：このワークショップで行われた「品質基準が高すぎることにより、スマホ製
造会社の従業員が過剰な労働をさせられている」という想定に立って、従業
員・製造会社・消費者の立場を明らかにして意見をまとめましょう。

世界の貧困、環境 スマホで考える



大津で学校関係者ら

県国際協会が二〇二〇年
から、国際教育についての
ワークショップを催してい
る。スマホに焦点を当てた
のは、今回が初めて。SD
Gsは二〇一五年の国連で採択
された、二〇年までの国際
目標。貧困解消や環境保全
などに関し、十七の目標を
定めている。

会では、スマホの原料と
なる金、錫やコバルトな
ど、レアメタル（希少金
属）の採掘地の一つである
途上国で起きている問題な
り上げた。

どを紹介。アフリカのコン
ゴ民主共和国で鉱山を巡り
武装勢力などの衝突が起き
ていることや、フィリピン
で企業の強引な開発により
現地住民の暮らしに悪影響
が及んでいることなどを取
り上げた。

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」について、スマートフォンと関連付けながら考える、ユニークな国際教育ワークショップ「スマホから考える世界・わたし・SDGs」が二月上旬、大津市におの浜のピアザ淡海で開かれた。大阪府の高校で教員として働く佐藤友紀さん（左）が進行役のファシリテーターを務め、中学一年から七十代までの学校関係者ら約三十人が参加した。（柳昂介）



スマートフォンを題材に、SDGsについて意見交換する参加者たちと、それを見守る佐藤さん（中央）＝大津市におの浜のピアザ淡海で

従業員、製造会社や消費者
などの役割に分かれて議
論。企業側に立った参加者
は「品質向上や製品開発に
歯止めをかけるのが難し
い」などと頭を悩ませてい
た。

佐藤さんは「参加者の方
たちはとても意欲的だっ
た。若い人は五十〜六十
年もスマホと付き合ってい
くと思うので、こういった
問題をもっと知ってほし
い」と活動の広がり期待
した。参加した東京都世田
谷区の高橋太郎さん（左）は
「昨年、家族でスマホに切
り替えたこともあり、関心
があった。途上国で労働者
が苦しんでいる問題が、い
ずれ日本でも起こる可能性
があると感じた」と振り返
った。

Empty rounded rectangular box for writing.

Large empty rectangular box for writing.

【活用にあたって】

「持続可能な開発目標」の目標4は、「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し生涯学習の機会を促進する」です。

そして、文科省の「持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーションに関する基本方針」には「教育機関施策との連携により学習機会を充実」とあります。

これからの時代を生きる子どもたちには避けて通れない課題ともいえる目標でしょう。まず、こうした記事を活用して、どんな取り組みが行われているかを知るところからアプローチしてみても良いでしょう。

解答例

問1： 2015 ・ 国連 ・ 2030 ・
貧困解消 ・ 環境保全 ・ 17

問2： コンゴ民主共和国 ・ フィリピン

問3： 立場と根拠を明確にして自分の考えが書けているとよいと思います。

またそれを基に仲間と意見交流できると、より深い学びにつながるとと思います。